

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん営農総合課)
(公印省略)

営農情報 3

麦の収穫とわらのすき込みについて

1 麦の収穫について

現在、麦の収穫作業が進められています。今後天候が不安定になると予想されていることから、穂発芽や赤かび病による品質低下を避けるため、収穫適期を迎えたほ場から速やかに収穫を行いましょ。倒伏や赤かび病の発生程度に応じた仕分け集荷を行い、別途乾燥、調製を実施しましょ。

2 麦わらのすき込みについて

近年、環境負荷を低減するため環境に配慮した農業が進められており、「福岡の麦」づくり運動方針でも、稲わら・麦わらのすき込みによる土づくりの実践を推進しています。わらをすき込むことで、土壌の物理性の改善に繋がります。

以下を参考に、麦わらは焼却せずにすき込みましょ。

■わらすき込みの効果

- ① 稲・麦わらすき込みにより、腐植の低下を緩和し、地力維持できる。
- ② 土壌が軟らかくなるため、根の伸長を促し、耕うん作業が容易になる。
- ③ 土壌の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できる。

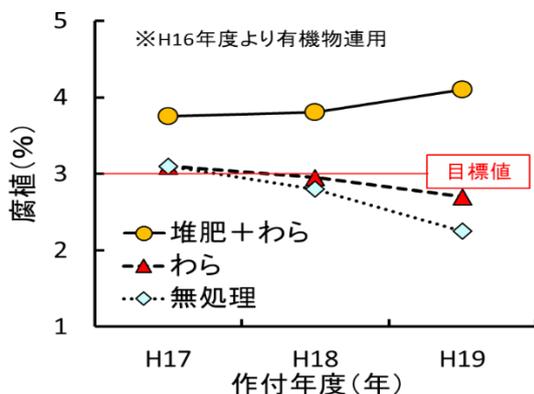


図2 有機物連用による腐植の変化
(福岡農総試)

注)ほ場条件:「大豆-麦」体系ほ場(三潁郡大木町)

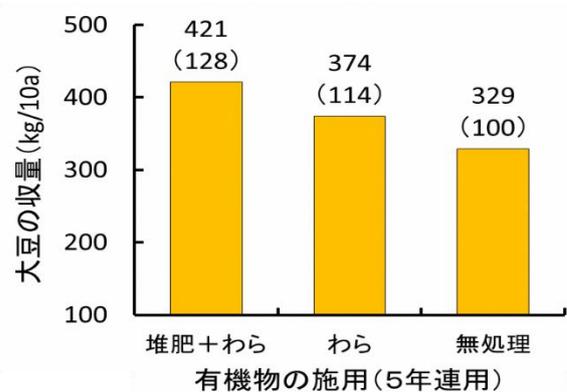


図3 有機物連用による大豆の収量
(福岡農総試)

注)ほ場条件:「大豆-麦」体系ほ場(三潁郡大木町)

■麦わらすき込みの手順とポイント

【水稲作前の場合】

- ① 麦わらを15cm以上の「長めにカット」し、ほ場一面、均一に散布する。
→ 代かき時での麦わらの浮き上がりを減らすため
- ② 麦わらすき込み開始後3年間は、基肥は窒素成分で2~2.5kg/10a程度を増やす。
→ 麦わら分解促進のため
- ③ 耕うん（荒おこし）は、早めに、通常より深く耕す。
- ④ 荒代かきは、トラクターの尾輪跡に水がたまる程度の極浅水（ベタかき）で行う。

- ⑤ 移植後15日、25日に水の入れかえ（強制落水）を行い、ガス抜きをする。その後は、間断かん水、中干しを行う。
→ 麦わらが分解される際、ガスが発生して、水稲の初期生育に影響を与えることがあるため

【大豆作前の場合】

- ① 播種ロールの回転に支障がないように麦わらを「細かくカット」し、ほ場一面、均一に散布する（特に、枕部分など）。
- ② 麦わらすき込み開始後3年間は基肥は窒素成分で2~2.5kg/10a程度を増やす。
→ 麦わら分解促進のため
- ③ プラウ耕（スタブルカルチ等）や、深めのロータリ耕により、土壤に混和する。
- ④ 耕起時の碎土、播種後の鎮圧をしっかりと行う
→ 出芽率を高めるため



わら焼却は、もったいない！